

## 桃巖寺と名古屋大仏

地下鉄本山駅から名大まで歩くことが多い。なぜ名大なのか。それについては別にレポートしよう。

地下鉄が開通していない頃は、四谷通りは名大方面に歩く人で賑わっていたが今は少ない。のぼり坂になっており朝早くても汗が出てくる。木陰になっているので、いつも東側を歩く。

その途中に曹洞宗桃巖寺(とうがんじ)がある。案内によると、末森城主であった織田信行が父・信秀の菩提を弔うために建立して、現在地に移されたという。

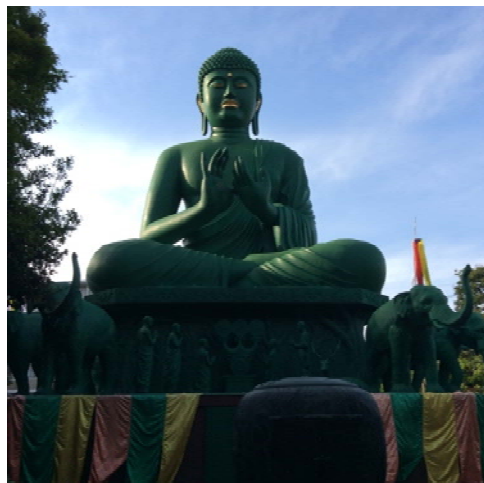
写真のように四谷通りから眺めると、なかなか風情がある。坂を上って疲れる頃に、ちょうど木々の中から寺が見えてくる。しばし休憩して、名大に向かう。

朝と夕に眺めることが多い。雰囲気は違うが、それぞれに味わいがあり、疲れを癒してくれる。癒しのスポットである。

境内には日本一とも言われる直径1メートルの木魚があり、「名古屋大仏」がでんと構えている。全高15メートル、台座は10頭の象である。大仏は奈良や鎌倉が有名だが、こちらは1987年完成、2006年に緑色の着色を施したという。なぜ緑色に変身したのか、その「わけ」を知りたい。

ネット情報によると、この大仏は昭和50年代後半、信者の信仰の対象として建立が計画されたという。その頃、1988年夏季オリンピック開催地に名古屋市が立候補したことから、オリンピックの開会式に「開眼供養」を行う計画であった。「幻の名古屋オリンピック」のために、この計画も幻となったという。大仏の「開眼供養」はどうなったのか。大仏は開眼されたのか。

名古屋大仏が幻の名古屋オリンピックと関係があったとは、今回レポートを書き始めて知った。私の「最終講義」でも少し話題にしたが、名古屋市立女子短期大学に就職した頃、名古屋オリンピック誘致「騒動」に関心を持ち、オリンピックと名古屋市政分析を始めた。まさか名古屋大仏も誘致「騒動」のに巻き込まれていたとは。



(2014年8月15日)